

第3次福津市行財政改革大綱 実施計画
No.19 福祉会館（潮湯の里夕陽館）の民営化

令和7年度実施分担当：観光振興課（現 商工観光課）

	答申より	担当
1	<p>本件は基本的に事業者による自由な活用を狙いとする一方、その事業者が撤退とならないような市のバックアップはある程度必要と考える。</p>	<p>本件は、指定管理制度や市による業務委託というものではなく、一民間事業者による収益活動として捉えています。</p> <p>そのため、市としては、施設の有効活用と地域活性化につながる事業活動の展開が継続かつ拡大していくよう事業者と協力や連携を図っていきたいと考えます。また、市都市計画マスタープランにおける観光交流ゾーンにも位置していることから、面的な活性化につながるよう、連携することでバックアップしていきたいと思います。</p>
2	<p>民営化するにあたり、事業の黒字化を考えると、事業者が利用料を変更することは避けられないかもしれない。市営の福祉施設ではなく民間の温浴施設である旨の明確な周知を、市がもう一押しすることも適宜必要ではないか。</p>	<p>事業計画が確定次第、民間の温浴施設として10月に開業する旨の情報発信について、事業者と協議しながら、行政として発信すべきことと発信するタイミングを整理した上で、慎重かつ丁寧な周知を行う予定です。</p>
3	<p>昨今のインバウンド需要も考慮し、ターゲット層の事前精査などが進められるとよい。</p>	<p>ターゲット層の設定については収益向上に向けて事業者が特に慎重かつ戦略的に行うものと考えます。市としては、来訪者の現状や他の観光スポットの位置や人流の状況など、DMOや観光協会とも連携を図ることができる契機を設けていきます。</p>
4	<p>夕陽館の稼働で上手く人の流れができた際、周辺地域との連携もできるような包括的な流れを今後の事業計画等に盛り込んで進めていただければ。</p>	<p>施設の貸付の条件として、「市内の生産者や事業者、他の観光スポットとの連携・連動した事業を展開すること。また、本市の観光振興施策や観光関連団体の活動趣意を理解し、第2次観光基本計画で掲げる『福津の魅力を生かした持続可能な観光のまち』の実現に向けて、積極的に市や観光関連団体と連携、協力を図ること。」を設定しています。事業者は、この条件を達成すべく事業を企画・展開していくことになります。</p>